

科目名	建築構造力学演習	英語科目名	Exercise for Building Structures		
開講年度・学期	平成 28 年度 通年	対象学科・専攻・学年	建築学科 2 年		
授業形態	演習	必修 or 選択	必修		
単位数	1 単位	単位種類	履修単位		
担当教員	本多良政、横内基	居室（もしくは所属）	本多：専攻科棟 4F、横内：建築学科棟 3F		
電話	本多：内 838 横内：内 837	E-mail	本多：y.honda@小山高専ドメイン 横内：yokouchi@小山高専ドメイン		
授業の到達目標		授業到達目標との対応			
		小山高専の 教育方針	学習・教育到達 目標 (JABEE)	JABEE 基準	
		1. 力のつりあい条件やつりあい状態を説明できる	③	—	—
		2. 静定骨組の応力を算定することができる	③	—	—
3. 静定骨組の応力图が描ける		③	—	—	
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法					
1-3 授業中に行う小テストと 4 回行う演習テストの成績及びレポートの内容により評価を行う					
評価方法					
1-3 演習テスト (60%)、小テスト (20%) 及びレポート (20%) で評価を行う					
授業内容					
構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を理解するために、建築構造力学演習では力の概念、力のつりあい、静定構造物に応力の算定に関する演習を行い、構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を完全に理解してもらう。 1 週目 ガイダンス 2 週目 力とモーメント 1 3 週目 力とモーメント 2 4 週目 力とモーメント 3 5 週目 力のつり合い 1 6 週目 力のつり合い 2 7 週目 【演習テスト】 8 週目 力のつり合い 3 9 週目 支点に作用する力の実習 10 週目 反力 1 11 週目 反力 2 12 週目 はりの応力 1 13 週目 はりの応力 2 14 週目 【演習テスト】 15 週目 はりの応力 3 16 週目 はりの応力 4 17 週目 骨組の応力 1 18 週目 骨組の応力 2 19 週目 骨組の応力 3 20 週目 骨組の応力 4 21 週目 骨組の応力 5 22 週目 【演習テスト】 23 週目 骨組の応力 6 24 週目 トラスの応力 1 25 週目 トラスの応力 2 26 週目 トラスの応力 3 27 週目 トラスの応力 4 28 週目 トラスの応力 5 29 週目 【演習テスト】 30 週目 静定構造物の応力					
キーワード	構造力学、静定構造物、力、応力、応力图				
教科書	1. 寺本隆幸「建築構造の力学Ⅰ」森北出版 (2005)				
参考書	1. 和泉正哲「建築構造力学Ⅰ」培風館 2. 望月重他「建築構造のための力学演習」鹿島出版会 3. 建築学教育研究会「建築にはたらく力のしくみ」鹿島出版会 4. 日本建築学会「ちからとかたち」丸善 (2004) 他				
カリキュラム中の位置づけ					
前年度までの関連科目		建築概論			
現学年の関連科目		建築構造力学演習、建築構造システム			
次年度以降の関連科目		建築構造力学Ⅱ、Ⅲ、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木構造			
連絡事項					
・原則として毎時間、小テストを行うので、授業を受ける際には予習を行ってこよう。 ・レポートは必ず提出すること。 ・建築構造力学Ⅰと平行して進めていくので、力学Ⅰの理解度を確保する時間だと考えてほしい。					
シラバス作成年月日	平成 28 年 2 月 23 日				